

# 非暴力直接行動

No. 114

10<sup>th</sup> / 7<sup>th</sup> 1981  
Jul.

戦争抵抗者インター日本部 大阪市阿倍野区旭町2-12-2 ウリ大坂発行

## 戦争を反対しよう

Fii & Kou

「戦争いやや」とか「反戦」とかいうとき、女たちの中でもかならず出てくる論議がある。それは「どんな戦争にも反対というけど、それだけでは現にいま困っている、たとえばパレスチナで南アフリカで、世界で革命のために戦争をしている人たちの足をひっぱるることになるんじゃないか。あんたたちは解放戦争をどう思うんか。」

それにも反対なんか。」と。

三・一五、女と反戦、実行委の時も、オ一回目はその議論だけで終始して、後をひいた。先月の軍事費拒否の会の講座でもそんな発言があった。

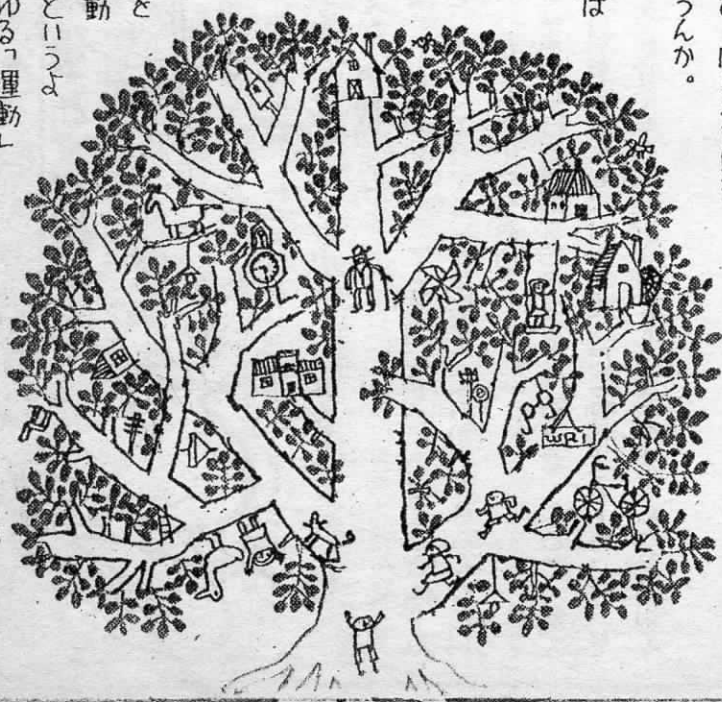
しかし、この問題提起から出てくる論議は、いくら重ねてもいつも不毛やなという気がする。

つまり、こういう論議になると、話に加わる人が運動経験者に対して限定されてしまうし、ほかの人はひたすら圧倒されて黙っているか、

反発するかで、全体にひろがらない。

X X X

男たちの集りではとくにそうだが、なにか運動をということになると、まず動き出すまえにその運動の位置づけや意味をきっちりとしとかなアカンというふうな傾向が運動者のなかにはある。へそれがいわゆる「運動」



を特別というか、専断家？のものにしている人とかいうやつか)

女の反戦でも、軍事費拒否の会でも、たいがいメンバ―がそうや  
と思うけど、それほど戦争に対して深い向題意識があって、参加して  
きたわけやない。ほとんどの人がごく単純素朴に、自分の身のまわり  
にある生活状況そのものを反映して「戦争はいやや」といい出したん  
やと思う。

たしかに「戦争いやや」というだけの思いだけで終るもんやったら、  
すこぶるたよりないもんやけど、そこからしか出発でへんし、また  
それを大事にすることから運動が動きます。このことは多少でも運動  
を経験した者の、運動をすすめる上のイロロでないやろか。

X X X

運動をすすめますやりにたくなるような議論というのは、はじめて出て  
きたくても、ついでその議題に口出したくなるようなもんやと思う。  
だから、向題は、向題提昇の内容がきわめて正当だとか、まちがっ  
ているという以前に、その発言が、いま運動をすすめる上でどう  
いう役割を果すのか、どういう意味をもつんかということだ。

たとえば、運動のはじめに「解放戦争」をどう思うかーなんて、つ  
きつけられると、ちよつとでも体を動かさうとしているのに、はじめ  
ての人にとっては何か頭をおけえられるかんじになる。

「運動をひろげる」ということからいえば、それはブレイキヤ。

じゃあ「運動を深める」ということでいけばどうやろか。もともと  
運動は、行動そのもので深められるものである。いかにええと運動の  
意味や内容は、行動を具体的にすすめていくなかではじめて明らかに  
なり、さらに新しい行動をつくりだすものとなる。つまり新しい行動の

再生産が「深まる」ということではないか

### へ女とく反戦

さてどこでー日本のいまの状

況下で出てきた女たちの、

「戦争いやや」といふな戦

争にも反対やが、たえば、ハリスチ

解放戦争の足を、とんをふうに引つはることに

なるんか、の問題やけどー

まず、いいたいのは、ことし三月にやった「女と反戦」でも

のとき、「なんでへ女とくが反戦につくのかわからへん」とい  
う音が、女たちの中からもれた。

そもそも戦争ほど男めなものはあらへん。女、こども、老人

障害者などを犠牲にし、いざとなら切捨てるという、そ

のひどいだけでも(沖繩戦を例にとるまでもなく)はつきりし

ている。

とすれば、どんな戦争でも、女にとっては前提なしの無条件

で、「いやや、反対や」というのは当たり前のことやと思う。

もちろん、女はいつても日々の生活を共にする男たちの論理に

よる幻滅の下で、男社会の半分を支えて生きてきた。

戦時下には、ほとんど異議をとなえず男たちを助け、戦国補

助者として戦争に加担した。さらには出征兵士を叱咤して送り

出し、なれないキツきで兵器工場が働き、すずんで戦争遂行の

一翼を担ったという事実がある。(3頁上段へ)



ろか。

支援意欲を表明するための有拘読者になってくれませんか。年間千二百円 申込み(米田)

東アジア反日武装戦線への死刑・重刑攻撃粉砕、裡新審を主たかう支援連絡会議ニュース



毎月末発行。(1) 3号、1 東ア反日戦線は何を訴えているのかー連発討論が二回ー三發煙霧散  
 争の総括をめぐって一報告。 2、三發三回煙霧散開かれる。 3 身辺雑記・詩(中略)を並べ置(り)を(る)



すくなくとも、男たちの戦争を止めたいというよりはしなかった。

つまり女たちにとってあたりまえの、「戦争にやや」が、女自身のなかにある男の論理によつて打消され、「女と反戦」の「女」が意識的な運動としてあらわれることがなかった、ということだ。

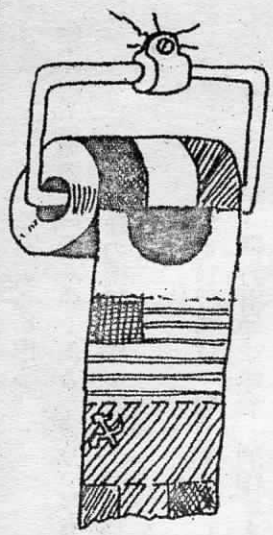
X X X

戦争は、支配者―権力―強者の物理力での闘い方だ。女たちの闘い方ではない。その勝利の結果は、男たちのものとなって、その側についた女あるいは「弱者」は、大きな犠牲のかわりに、ほんのちよ、びり男たちのおこぼれをうけてるだけにすぎない。女が求める解放を、もたらすもんではない。

それから、女の解放は、どうしても戦争によるのではない。物理力ではない別の道、別の闘い方をせよアカン。それこそが「非暴力直接行動」やと、私は思う。

それは、いま帝国主義の侵略、支配と闘つてるといえばパレスチナの女たちにとつても同じことではないか。

少くとも、それは、いまパレスチナやとかオ三世界について何も知らなくても、単純・素朴に「反戦」の声をあげてる日本の女たちの思いと対立するもんではないはず。



**暴力・非暴力**

しかし、もちろんこれで「どんな戦争にも反対」の問題が終つたわけ

けではない。

というのは、もうあきらまになつたように、ここには、戦争にからんで「男対女」「暴力対非暴力直接行動」「国家対人民」の問題が、すでに見えかくれして出ている。

びくばらんについて、ほん、もし「あんたがパレスチナの女だったら、どないするんや」「男たちの戦陣行着をやめろ」というんか」と言われたらどうしたえるんか。

これに對しての今の女の、ごく原理的な立場をいうところ。

1. どんな手段であれ、抑圧と闘うことに對しては肯定する。かられるものがやりかえずのは当然前や。

2. やりかえず手段として、せっぱつま、た、他に余地のないものとして出てきている暴力的手段は、オ三者的立場にあるものにとつて、よい、わるいの評価や批判をこえたものである。

3. 暴力は強い装備のものが勝ち、弱者が負ける。勝つた者は、その勝利の結果を守るために、いよいよ暴力的にならざるをえない。革命の歴史はこの悪循環が、暴力によつて断ちきれないことをおしえてる。

「弱者」にとつて、自分が支持した強者の勝利が、果して自分の勝利となるものだろうか。

4. 女が、たとえは解放戦争を支持するのは、あくまで「非暴力直接行動」の立場からである。

それは、解放戦争を支持するのか、せえへんのかを議論する前に、自分は権力と闘うのか闘わへんのかを、まず自分の問題

とする、ということがあると思う。

だから、権力と闘うものであるかぎり、それが暴力闘争であろうとならうと、へ非暴力直接行動として支持する立場であるのは当然りま之や。

もちろんへ支持というものは、自分もいっしょになって武器を持ってかけつけるとか、暴力闘争に参加・加担するということにはなれへん。

へ支持とは、自分の立場から、はっきりとした自分の主体性をうち出していくこと以外ではないやう。

さらに云えば、へ女と反戦とは、女自身の闘い方へ非暴力直接行動を自分の手でつくりだし、さらには男たちをもまきこんで、「弱者」を犠牲にすることのない解放の闘いを、主体的に展開することやと思つう。

それがどんなにむづかしく困難でも、それ以外にへ女と反戦のまちはない。

「へ女を戦争  
今までの小論  
にも反対  
うそやい  
感想をゆひ  
てね」



お知らせについて  
詳細なお問合せは  
06-104-089へ  
但し午宿及び夜のみ

Fu & Kou

7月10日 PM 6-1 於P.L.P.会館 徳之島・洛州島・西表島に再処理

工場をつくらせない集会。講師立藤和子さん。

7月12日 PM 2-1 於共同小屋 なにが何でも原発に反対する女性

ちのグループ例会（へガニ次議院などについての企画）

宇利乃奈加乃乃安伊古止改喫天尔乃里叙

7月13日 PM 7-1 死刑禁止側面連絡センター公開講座。「死刑

制度の幻想的威嚇力について」報告山田健一郎さん・於芦原  
橋・部落解放センター

7月14日 PM 6-30 於共同小屋 たんぼ図書館公開市民講

座「あなただにのびるナチスの手をうて」夏山健さん

7月15日 PM 6-30 於共同小屋 不払い連びつくり市井講座

カ28回へ反原発展の巻PART II

7月16日 PM 6-30 於共同小屋 おなごご三里塚主催 へ反

原発のイロハカ田るり子さん

7月17日 PM 6-30 良心的軍事愛拒否の会関西守例会「どこ

らこそ軍事愛拒否！」於共同小屋

7月18日 PM 6-30 於泉大津・南深寺「原子力は未来の工

ネルギーになりうるか」水田ふうさん 女共演者く形劇

7月19日(日) PM 2-1 於共同小屋 不払い連。

x x x



8月1日 夏休みです。よろしく。

8月中下旬・伊勢の山奥 青雲社で「三泊四日ほどの会場で

「非暴力トレーニンゲセミナー」をやりたいと思つています

会費を各自収め（十食）三千円位。他に交通費自分。

希望の方は 電話又はハガキで、早目にお申込み下さい。清

流宮川での水浴や流木をあつめてのキャンプファイヤーなど、

去年はついでにお伊勢さんにちよつとあいさつしてきました。

へ実践非暴力直接行動へ夜襲の届稿遅々として進行中。

夏休み中になんとか仕上げたいものです。